わかやま母親通信

生命を生みだす母親は
生命を育て
生命を守ることをのぞみます

第 109 号　*2023 年 11 月 15 日発行*

発行　和歌山県母親大会連絡会 事務局　和歌山市小松原通 3 の 20 和歌山県教育会館内
和教組 TEL073-423-2261　FAX073-436-3243　母連メール：w_haharen@wkn.or.jp

HP 和歌山県母親大会

本日、母連対県交渉　23 項目の切実な要求を訴えよう

今年の県母親大会は４年ぶりの地域（田辺市）開催となりました。前日から大雨が降り心配しましたが、無事開催となり、ほっとしました。

「子どもと教育」では、コロナ禍の影響もあって学校へ行きにくい子どもたちの問題は一層深刻で、学級の定数減が早急に必要です。学校給食の無料化も切実な願いです。「社会保障」では、今こそ医療の充実が大事な時に、ベッド数を削減する「地域医療構想」は中止してほしいと強く願うところです。公立病院の産科の充実も切実です。「くらし」では、税金については住民のくらしや地道な産業への応援に使うよう強く要望したいです。「女性差別撤廃条約選択議定書」の早期批准を国へ要望したいです。

各郡市・各団体から発言をお願いします。

明日へ

『和歌山の歴史ー女性たちのたたかい』 第二回

「教え子を再び戦場に送らない」決意を胸に

戦後の和歌山県の平和と民主主義運動、労働運動を語るとき、まず教師たちの教育運動を語らなければなりません。教え子を戦場に送り侵略戦争に協力したことへの深い悔恨から、教師たちは出発しました。

1946 年９月に結成した和歌山県教職員組合は、日本国憲法のもとに、全国に先駆け、組合運動の一環として「責善教育」に取り組む方針を決めました。それは、理不尽な差別や貧困の中に置かれたままの子どもたちの現状を直視し、「完全なる民主主義教育」と「基本的人権の確立」を運動の課題としたのです。そして、この責善教育運動は、その後の全国的な同和教育運動に深い影響を与えました。

また、各地で生まれた民間教育運動は、「子どもから出発する」「子どもをまるごととらえる」ことを何より大切にする実践を重ねました。それは、特色のある生活つづり方教育、生活指導、障がい児教育を生み、社会、算数、体育など教科教育とも響き合い、貴重な実践を生みました。

こうして、それぞれに出発した教育運動は、県サークル研究集会や県教育研究集会

などで交流と連携を深め、「和歌山の教育」として確立していきました。

その理論と実践は、後に広がる学級崩壊や不登校問題に悩む親や教師の教育相談活動にも生かされていきます。

『和教組 50 年写真集』より 1959 年　子どもたちはいつも明るい

勤評闘争と七者共闘　　留置場の周りに響き渡った励ましの声、声

日本国民の民主化運動と生活を守るたたかいの全国的な広がりを前に、占領軍による日本の「民主化」政策は、180 度転換します。

1947 年には、「２・１ゼネスト」に中止命令を出し、レッドパージを始めました。1950 年に朝鮮戦争が始まると、日本に「警察予備隊」をつくらせ再軍備の道を命じました。

それに従い、政府はすぐに国民を統制する政策を打ち出し、教育を統制するための「教育二法（教科書統制・教育委員任命制」と教員への勤務評定を押し付けました。

♪ゆうや～け
こやけ～の
赤とんぼ～♬

明日にむかって
婦人教職員の闘いの記録

和教組婦人部　発行
1968 年

教師を差別し分断する勤務評定の導入は「戦争への一里塚」だと指摘し、全国的に反対運動が巻き起こりました。和歌山県では、すぐに七者共闘（和教組・和高教・教育庁職組・県地評・県職組・和解連・和大自治会）が組まれ、保護者や地域との話し合いでは女性教師が活躍しました。妊娠中の先生も「じっとしていられない」と出かけて行ったという話が伝わっています。

一歩も引かない七者共闘に対して、和歌山県教育委員会は、突然警察権力を使って、教組役員を逮捕する暴挙に出ました。その中には婦人部長もいました。婦人部長の身を案じて留置場周辺に集まった女性教師たちが、代わる代わるマイクを握って励まし続けました。

さらに、役員の免職・停職処分、休職専従不承認、団交拒否など、あらゆる暴挙にもひるまず闘い続けました。このあと 19 年にわたる裁判闘争を経て、免職処分を撤回させました。役員の２人が学校現場への復職を果たし、「よき労働者は、よき教師」と言われる優れた教育実践をすすめました。

この勤評闘争は、和教組・和高教の組織を強くし、教育運動を進める源となるとともに、闘う県地評の中核団体として、今日まで、和歌山県の平和運動・労働運動を牽引し続けています。

次号は、いよいよ母親運動の誕生です。

勤評・学テ処分「和解」記念レセプション
よろこびの挨拶をする両教組原告団とその家族
『和教組 50 年写真集』より
1977 年

9/17(日)14:00　日高郡市母親大会を開催

日高教育会館で、「給食について考えよう」をテーマに、ＤＶＤ『日本母親大会の 60 年』『希望の給食　食と農がつむぐ自治と民主主義』を視聴しました。

給食無償化と有機農業の先進国、韓国の運動、千葉県いすみ市・長野県松川町の学校給食の有機化の実践から、無償給食は子ども達の権利であること、今は学校給食での有機食品の利用は７．３％ですが、有機農産物を給食に使うことで農業も環境も地域も守れることが分かりました。ただ機器の調子が悪く、途中から音声のみになり、申し訳なかったです。今後「ひだか郡市給食を考える会」で給食について学び考えていくこと、来年の日本母親大会を成功させていくことを確認しました。参加者は、20 名でした。　（倉本）

9/30(土)13:30　第 53 回有田郡市母親大会を開催

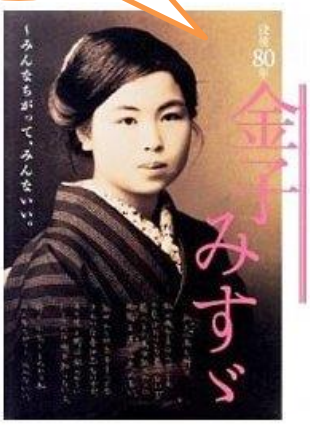
湯浅町地域福祉センターで、ＤＶＤ『日本母親大会の 60 年』を視聴した後、和歌山市から、松永久視子さんを迎え、『食の安全について考えてみませんか？』と言ったお話を伺いました。

松永さんは、食料自給率の低さについて、「日本は有事があれば食べ物がなくなる国だ」と指摘しました。諸外国では、命を守り、環境を守り、農業など国土を守る産業を守っている。それが世界の常識だということです。さらに、成長ホルモン剤入りの飼料添加物、広く使われている枯葉剤、農薬基準の緩さ、遺伝子組み換え表示問題等、「安全」も「安心」も危うい事態が進行しています。

今、有機栽培面積を広げようとする動きや学校給食に地元産農産物を供給しようとする動きが各地で起こってきていますが、その広がりと努力が今後の希望だということです。

お話の後、４グループに分かれて、感想交流をしました。

おいでませ～
山口へ



私と小鳥と鈴と

金子　みすゞ

私が両手をひろげても
お空はちっとも飛べないが
飛べる小鳥は私のように
地面(じべた)を速くは走れない

私が体をゆすっても
きれいな音は出ないけど
あの鳴る鈴は私のように
たくさんな唄は知らないよ

鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい

2023.6.11(日)「第 67 回和歌山県母親大会 in 田辺」の開催を担って

田辺西牟婁実行委員会の総括(反省と課題)

前日から当日にかけて悪天候だったにも関わらず、県下各地から 330 名余りの方々が田辺市に集まっていただき、無事に開催できたことに感謝します。

当日はいろいろと不手際があり、不便をかけたこともありましたが、「分科会での内容がとても良かった」「全体会は感動的だった」「久しぶりに仲間に出会い、元気がもらえた」などの感想をいただき、私たち現地実行委員もほっとするとともに元気づけられました。男性の参加者も多く、「母親大会」が、子どもの幸せ、平和な社会、だれもが安心して暮らせる世の中にしようと願う人々の集まりなのだと改めて実感しました。

大会を終え、現地実行委員会で総括をしました。反省点と課題も多くありました。

コロナ禍の影響で学校施設が借用できない中、会場使用許可が 12 月半ばにようやく下りました。そのため、現地実行委員会の立ち上げが 1 月とかなり遅れての取組みであり、現地に任された見学分科会などは実行委員会内で十分な検討が出来ず事前準備も徹底できていなかったので、世話係には大変な苦労をかけてしまいました。参加者の高齢化が進み、これからの見学分科会では考慮すべきことが多々増えてくるようです。

また、各地の交流の中で、上富田町のデマンド型乗合バスの実現について発言させていただきましたが、後日、内容について不十分さを指摘する声が届きました。事前の実行委員会での確認が不十分であったことを反省しています。この運動は、一個人・一団体の取組みではなく、大運動として住民が要求を出し、熊野市への視察等要求実現の取組みや議員が８年間粘り強く質問で取り上げてきたことが町を動かし、共に実現に向けて努力してきた成果だったことを実行委員会として再確認し、報告させていただきます。

「参加者の高齢化、学校施設の借用が難しくなっていく中、これからの大会の内容を考えていく必要があるのでは」「若い人たちへの誘いが弱かった。若い世代に繋げていくことが大きな課題」という声もたくさん上がりました。実行委員それぞれが知恵を出し合い、検討し、より良い内容を提案していく努力をしましたが、不十分な点が多々ありました。今回の反省と課題をこれからの運動の教訓としていきたいです。

歴史ある母親大会を支えてきてくださった先輩方に、これからも学び、若い世代に繋げていくという重責を感じながら、日々できることを協力し合って地道に続けていける組織をめざします。

コロナ感染拡大第８波の中で開催地を引き受け、困難な中で諸準備に走り回ってくださった西牟婁郡市のみなさんには、感謝しかありません。今回の貴重な総括も含め、ありがとうございました。**(県母連役員会)**